

科目名		音楽 I			学期	後期		
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校(日曜)			
評価計画	添削指導	8 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価8割とする。				
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。				
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	2 割	定期					
			試問実技	スクーリング時に楽典の問題を解く。				

1. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	音 I 701	音楽 I Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	声について・日本・世界の歌曲	発声・歌曲	声の出し方・魅力について学ぶ。世界の歌曲を知りその魅力について学ぶ。
2	10/29	箏について・ミュージカル「オペラ座の怪人」	和楽器・ミュージカル	箏について知る。舞台芸術について知り、特徴を感じてみる。
3	11/26	歌舞伎について・雅楽について	舞台芸術	総合芸術・歌舞伎について音楽・舞から学ぶ。雅楽についてDVDで鑑賞する。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	音楽Ⅱ			学期	後期		
最低面接時数	4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件	スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
				本校(日曜)			
評価計画	添削指導	8割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価8割とする。			
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	2割	定期				
			試問実技	スクーリング時に楽典の問題を解く。			

1. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

音楽は、本来人間にとって必要不可欠です。自分や社会にとってこの音楽が、どのような役割を持つのか。音楽の意味や価値を考え、深めていきましょう。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	音Ⅱ 701	音楽Ⅱ Tutti+	017 教出

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	ミュージカル・はかなし愛の誓い	里の秋 たき火など	
2	10/29	オペラ・アヴェマリア	トゥーランドット アリアなど	
3	11/26	モーツァルトの晩年の交響曲 アメリカ育ちのクラシック	モーツァルトの晩年の交響曲 アメリカ育ちのクラシックなど	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持たせることができる。	音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	美術 I			学期	後期		
最低面接時数	4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位
履修できる条件	スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
				本校(日曜)			
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。			
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	4 割	定期				
			試問 実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。			

1. 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材（絵の具・色鉛筆・筆・パレット等）の準備が必要になります。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	美 I -703	高校美術	116-日文

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	絵画	身近な植物や動物を描いて見ましょう。	モチーフをよく観察して、対象の形や特徴をよくとらえ、いろいろな画材を使って描写しましょう
2	10/29	デザイン	通信制のポスターを作りましょう。	延岡青朋高等学校・通信制の文字を必ず入れましょう。字体・大きさ・配置・文字色は自由です。
3	11/26	絵画	自分の顔をモチーフにしてデッサンしてみよう。	自分をよく観察して、対象の形や特徴をとらえ、鉛筆で描写しましょう。少し斜めからの方が描きやすいです。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		美術Ⅱ		学期	後期			
最低面接時数		4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所			
					本校(日曜)			
評価計画	添削指導	6割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。				
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。				
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。				
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。				
	実技	4割	定期					
			試問 実技	1.各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。				

1.目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

- (1) 感性や想像力を働かせ、個性豊かな表現を工夫することができる。
- (2) 表現材料や表現形式を工夫し発展させ、効果的に生かす技能を身に付ける。
- (3) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想することができる。

2.教科の概要(選択の際のアドバイス)

スクーリング時の作品制作や、レポート作成時には画材(絵の具・色鉛筆・筆・パレット等)の準備が必要になります。

3.使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	美Ⅱ-702	高校生の美術2	116-日文

4.添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	デザイン	ポスター	「文化祭」または「体育祭」を1つテーマにして、ポスターを作ってみましょう。
2	10/29	絵画	風景画	水彩画を描いてみましょう。 植物のある風景を色の濃淡を使って表現しましょう。
3	11/26	デザイン	ロゴマーク	あなたが将来会社やお店を開くと想定して、ロゴマークを制作してみましょう。

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		書道 I			学期	後期			
最低面接時数		4 時間	レポート数	3 回	テスト	無	単位数	1 単位	
履修できる条件		スクーリングに参加できる生徒			開講する場所				
					本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	6 割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。					
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	実技	4 割	定期						
			試問実技	1. 各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。					

1. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書 I	705・光村

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	漢字の書(隸書・篆書)・鑑賞など	曹全碑	草書・篆書・隸書の学習(特徴)、鑑賞(楷書と隸書の違い)
2	10/29	仮名の成立・蓬莱切・漢字仮名交じりの書など	いろは歌	仮名の成立と種類、平仮名の字母、古筆に見る仮名の表現技法、鑑賞
3	11/26	生活の中の書(封筒・往復はがき・履歴書・のし袋)・ふりかえりなど	のし袋	生活の中の書

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	書道Ⅱ			学期	後期		
最低面接時数	4時間	レポート数	3回	テスト	無	単位数	1単位
履修できる条件	書道Ⅰ修得済みの者			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	6割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の6割とする。			
	面接指導		各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。 2.出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	実技	4割	定期				
			試問実技	1.各回レポートに実技課題を設定し、レポートの締め切りにあわせて提出する。			

1. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(※生徒の作品を校内展示しながら、学ぶ意欲の向上や自己肯定感の育成に努める。)

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

芸術科目の中では用具・用具の準備にかかる費用等大変ではあるが、日常における書写能力を高める技術を身につけることができる。また硬筆による実用書や文字の芸術的表現を楽しむことができる。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	38・光村	書Ⅱ	704・光村

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	鑑賞・篆刻など	二字熟語	鑑賞・篆刻
2	10/29	仮名の書・書の特徴と歴史など	高野切第一種	高野切第一種、平仮名・変体仮名の組み合わせ、古筆の多彩な表現
3	11/26	これからの書と自分・鑑賞など	漢字仮名交じりの書	自己を表現する

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く考え幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現効果を生かして効果的に表現するための技能を身に付けることができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて、効果的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	レポート・スクーリング・実技の取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・実技の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	英語入門			学期	後期		
最低面接時数	8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	英語C I を未修得の生徒			開講する場所			
				高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導		各回	1. 8時間の最低スクーリング時数(放送視聴4時間分の利用を含む)の充足を基本とする。 出席時間数の多い少ないでは評価しない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3. 面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			

1. 目標

英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を学び直したいと考えたりしている生徒に、英語に対する苦手意識を解消し、「読めて」、「話せて」、「聞けて」、「書ける」という「4つの技能」をバランスよく学習させ、次の「英語コミュニケーションⅠ」の学習への橋渡しをスムーズにする。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

中学校1、2年生の基礎的な内容がよく工夫されている教材を用い、英語の基礎力を身につけ、次に学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」(本校卒業要件筆数単位)の学習を容易にす橋渡し科目である。英語が苦手だと感じていたり、もう一度基礎から英語を勉強し直したいと考えたりしている生徒は、ぜひ英語入門から勉強してください。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	NHK出版		ENGLISH 英語入門
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	Lesson6 A Funny Picture from the Edo	受動態など	
2	10/15	Lesson7 A Diary of Hope	比較(同等・比較級・最上級)など	
3	10/29	Lesson8 A Door to a New Life	現在完了形など	
4	11/12	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	現在分詞や過去分詞など	
5	11/26	Lesson10 Pigs from across the Sea	関係代名詞など	
6	12/10	後期学習範囲のまとめ	Lesson6~10の既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文(ターゲット文)や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けている。	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また学んだ事柄を学んだ後に、筆記な口頭による表現できる。更に各課の中で紹介される事柄を自身や日本の文化等に対比させて考えることができる。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	英語コミュニケーションⅠ			学期	後期		
最低面接時数	8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	C英語Ⅰを未修得の生徒			開講する場所			
				高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導		各回	1. 8時間の最低スクーリング時数(放送視聴4時間分の利用を含む)の充足を基本とする。 出席時間数の多い少ないでは評価しない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度は、評価の中に含めない。 3. 面接指導時間中の意欲や態度が本校の規定に抵触するほど著しく不良な場合には、当該面接時間の出席を認めない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			

1. 目標

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

英語によるコミュニケーション能力向上に資するよう、基本文型・助動詞・完了形・受動態・関係代名詞などの高校英語の基礎・基本を学習し、その定着を図る。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	C1701	All Abord! English Communication I	2東書
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	Lesson6 A Funny Picture from the Edo	受動態など	
2	10/15	Lesson7 A Diary of Hope	比較(同等・比較級・最上級)など	
3	10/29	Lesson8 A Door to a New Life	現在完了形など	
4	11/12	Lesson9 Fighting Plastic Pollution	現在分詞や過去分詞など	
5	11/26	Lesson10 Pigs from across the Sea	関係代名詞など	
6	12/10	後期学習範囲のまとめ	Lesson6~10の既習内容の確認と復習	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	[知識・技能]各Lesson中の重要文(ターゲット文)や文法事項の形・意味を理解する。 [技能]各Lessonで学んだ文、文法事項などの理解をもとに、同Lessonで紹介されたトピックについての内容を聞き取る技能を身に付けてい	各Lessonで扱われる日本国内や海外の事柄について書かれた文章の概要を捉える。また、学んだ事柄を学んだ後に、筆記や口頭による表現している。更に、各課の中で紹介される事柄を自分自身や日本の場合など対比させて考えようとしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		